

研究テーマ：英語学習にいかに関心を持たせるか

所属 高知市立介良中学校

氏名 大谷 富美子

RG JH5

1 研究の背景

3 年生は全体的には、落ち着いた態度で与えられた課題、例えば音読練習や暗唱、ゲーム的な活動などに意欲を持って取り組むが、英語を使って自分を表現したり、コミュニケーションを図ろうとする点においては消極的である。またその活動にあまり興味を示していない。このことは日頃の授業の中でコミュニケーション活動に十分な時間を取れていない授業内容に問題があると思われる。入学当初は一番興味があり楽しかったはずの英語に対して苦手意識を持ち消極的な生徒に対してどのように興味を持たせ、自ら学びたいという意識を持たせていくのかが私にとって一番の課題である。生徒が意欲的に取り組もうとする活動とは、授業とはどんなものかをこの機会に考え、実践していきたい。

2 リサーチクエスチョン

英語に対して苦手意識を持ち消極的な生徒に対してどのように英語学習に関心を持たせていくか。

3 予備調査

英語学習の入門期における生徒の「外国の人と英語で話したい。」という、純粋な憧れや興味を失わせることなく持続し、「関心」へと生徒の意識を高めていくためには入門期の早い時期から生徒が自己表現したり、与えられた課題をやり遂げることによる「成就感、達成感」を味わうことによって、次に与える課題への強い「意欲」が生まれる。しかし「授業＝文法説明＋ドリル＋和訳」、「英語学習＝膨大な暗記の記号体系」という「なっていない教授法」による授業を受けさせられれば、入門期に生徒たちの多くが抱いている英語学習への興味、好奇心、コミュニケーション能力に対する憧れも「関心」にまで高まることなく消滅してしまい、英語が苦手、嫌いという生徒が多くなってしまふ。実際、能力的に高い生徒も受験勉強のための学習は意欲的に行うが、それ以上の活動、つまり英語での自己表現や、コミュニケーションをとろうとする活動には消極的な生徒も少なくない。そういった生徒たちが意欲的に取り組み、また英語が苦手、興味がないと感じている生徒たちが自ら学習に参加したいと思うような授業を実践していく必要がある。

4 仮説の設定

単なるゲーム的な活動でなく、実際の生活で使える表現を使った活動の中で「会話が出来た。」「英語で自分の考えを述べる事が出来た。」など生徒が「分かる。出来た」という

「達成感、成就感」を持つことが出来れば英語学習に対して意欲を持つのではないか。

5 計画の実践

生徒に対して取ったアンケートの結果の中で、英語学習で難しい事は英作文、話すこと。簡単な事は単語を書くこと、リスニング、そして興味がある事は英会話という結果がでた。そこで生徒が英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思うような活動を行ってみた。

本校に9月から勤務するALTに対して単に自己紹介を聞くのではなく、生徒達がインタビューをする機会を設けた。生徒たちは大変興味を持ち質問を行い、質問に対する応えも理解しようと意欲的に取り組んだ。また中国、蕪湖市の生徒の訪問の際、その生徒たちが英語の授業に参加するということになった。そこで日本の文化の紹介を英語で行うことにした。国際語としての英語を使って中国の人ともコミュニケーションが取れたことに生徒は喜びを感じたようだった。その授業の後に、英語で話しかける生徒もいた。また英語を使って買い物をする活動に、買い物をする人、売る人と役割を決めそれぞれが楽しく取り組んだ。次に自分の意見を英語で述べる練習として、中学生が興味を持っていそうなテーマをいくつか選び、それに対して賛成、反対それぞれの立場で意見を書く活動をさせてみた。

6 実践の結果

英作文において、いつも苦手意識を持ち取り掛かろうとしない生徒もそのテーマについて自分たちの意見を書くために、自分たちの知っている表現を使ったり、また辞書を片手に班で協力し合って自分たちの意見を述べようと努力した。中国の生徒に対する日本の文化のプレゼンテーションでは、授業の中のゲーム的な活動やQ & Aでは少し発音がおかしなくても生徒たちの間では通じる英語もなかなか通じず何回も表現を変えてみたり、ジェスチャーを使ったりと苦戦していたが、自分たちの言いたいことが通じたときの喜びは大きかったようだ。また中国の生徒が流暢に英語を話せることに驚くと同時に自分たちも頑張ろうとする生徒もいた。

7 実践の検証

具体的な形としての結果は表れていないが、授業の後の簡単なアンケートでは、かなり多くの生徒が積極的に参加し、「英語が通じた。英語で自分の意見が言えた。」ということに満足をしている結果がでた。しかし、苦手意識を持っている生徒が積極的に参加したか、また「達成感」を感じたかという点においてはまだまだ十分とはいえない。

8 成果と今後の課題

以前は英語学習に対して全く興味を持たなかった生徒も、少数ではあるが、「自分の気持ちを伝えたい。コミュニケーションを図りたい。」という思いを持ち、いろいろな表現を覚えようと授業にも参加し努力する生徒も増えた。しかしそれが家庭学習には結びつかず、その場では理解してもなかなか定着しない。またそういった活動を多く授業に取り入れて

いきたいが実際時間的にはむずかしいところがある。今後は効果的にコミュニケーション活動をいれ、コミュニケーションを図ろうとする意欲、好奇心を英語学習に対する意欲につなげるような授業を工夫していきたい。